



相談支援つうしん

R2 第8号

県立湘南養護学校

支援連携部 相談支援係

令和2年 12月 24日(木)

地域によっては、今年は大雪で大変な年越しになりそうですが、子どもたちにとっては雪遊びができる楽しみが増えそうな予感もしています。さて、あっという間にクリスマスを迎えました。サンタさんはどんなプレゼントを運んでくれるのでしょうか。プレゼントを開ける子どもたちの笑顔が楽しみです。



コロナ禍により、障がいのある人々の生活に焦点を当てたテレビ番組を目にする機会が増えたような気がしています。「生活リズムを立て直すのが大変」「サービス利用したいが繋がってくれる先が見つからない」という内容、場合によっては「こだわり行動が止められなくなり、家庭の危機が迫っていた」という内容の番組もありました。

湘南養護学校の保護者の皆さんにとって、これらの事例は決して他人ごとではなく、『そこにある危機』かもしれません。日々の生活の営みの中で、じっくり考える時間を持つことはなかなか難しいと思いますが、ときどき“子どもが安定した情緒で過ごすために大事なことは何だろうか”という視点で『お子さんとの関わり方・親子の距離』を考えてもらえると良いと感じています。

コロナ禍で保護者の方々のお話を伺う中で感じたことは、
『“お子さんをちょうどよい距離で見守る”ことが良い方向に進む
ポイントになる』ということでした。



成長と共に、お子さんたちの課題も変化していきます。

「身の回りのことが少しでも一人でできるようになることや食事をしっかりとれること」が大事なことだった幼少期。だんだんと「人と関わる力」が求められるようになり、高等部に入学するころには「社会と関わる力」を育てていくことが大事なポイントになっていきます。

また、知的な遅れのあるお子さんたちにも、第二次性徴は訪れ、思春期も訪れます。このときの関りに悩む保護者の方々が実に多くいらっしゃいます。

- 身体の変化を、どのように教えてほしいだろうか？
- マスターベーションって教えるものなの？
- 子どもが発している『イライラ』を、どう理解してほしいの？
- 「異性への関心」を持つことを、どう理解してどうサポートしてほしいだろうか？

このような悩みを感じたことはありませんか？



(個別のご相談は、いつでもお寄せください。担任も支援も、良い方法を一緒に考えていきます。)

第二次性徴は、内性器(女性は卵巣、男性は精巣)から性ホルモンが分泌されることで起こります。はじめに現れるのは体の変化です。この時、性ホルモンは脳下垂体にも刺激を与え続けます。このことにより、「あの人きれいだな」「この人カッコいい」という気持ちを感じやすくなっていきます。併せて、親の存在がうっとうしくなり、関りを断とうとするような言動が見えてきます。THE 思春期=精神的な自立の始まりです。つまり、分りにくいけれど、身体の変化・成長とともに心の変化・成長も起こっているということです。知的な遅れのあるお子さんたちの心の変化・成長はより分りにくく・見えにくいかと思います。そして、「保護者の方が感じるよ

りずっと前から思春期は始まっていた！」という事実、ある時気付くことが多いようです。思春期にあることが見えにくいので、ついつい子ども扱いのまま親子の関係が続いてしまいがちです。

① 「意を決して、これまでの家庭の環境を変えてみた！」事例

「高等部に入学してからも、息子さんが可愛くて、お風呂も一緒、同じ布団で寝て、移動は手つなぎ」というご家庭がありました。障害があっても、特に性的なことについては生活年齢(実年齢)に合わせた行動様式にしていくことが大事であることを伝えさせていただきました。年齢相応に対応することは、「あなたを大事に思っていますよ」というメッセージになります。本人が尊重されていることは、しっかりと伝わっていきます。

お風呂は介助が必要なので、お母さんは裸ではなく下着で介助・仕上げの確認にしていきました。お布団も別々、徐々に一人部屋で休めるようにしました。移動は手つなぎを止めました。

繰り返しの中で、本人もこれまでと変わったんだと理解し、周りの人との距離が近かったのが、適切な距離を取れるようになっていきました。

★ご家庭では、普段どのように過ごされているでしょうか。

- ・一緒に裸でお風呂に入っていますか？
- ・一緒に布団、一緒に部屋で寝ていますか？
- ・落ち着かないときは、すぐ抱っこしますか？
- ・可愛いから♪と、抱きしめたり、ほっぺにチューしたりしていますか？



上記のような関わりは、生活年齢(実年齢)で考えた時、何歳ぐらいまでが適切でしょうか？小学部5年生ぐらいまでには是非思春期への対応を始めてみてください。

② 「エスパーをやめた」事例

「きっと今お茶を飲みたいんだろうな」「もうすぐこのおもちゃで遊びたいって言うだろうな」親は子どもの行動を予測し行動してしまいがちです。お子さんのことをよくわかっている良いお父さんお母さんであればあるほど、すぐに勘が働いて動くでしょう。エスパーが上手なのです。

実は、ここが落とし穴です。指示待ちになってしまい、自分からの発信力が弱くなってしまいます。そうすると、親がしていることがお子さんの本当にしたいことと違っていても、親は気付きにくくなっていきます。その小さなすれ違いの積み重ねが、思春期・青年期を迎えた時に大きな問題として噴き出すことがあります。

また、自閉的なお子さんであればあるほど、「お父さんは、お母さんは、何でも分かってやってくれる」と強く思い込んでしまいます。でも100%いつも当たるはずもなく、気持ちを汲み取れないこともあります。そのときに「**なんで通じないんだ!**」とパニックになる訳です。

親子の気持ちが通じ合わず、とても困っている保護者がいらっしゃいました。その方は、お子さんができそうな場面で自分からしたいことを発信する機会を増やすことにされました。すると、毎日のケンカがすっかり減ったということでした。学校でも、動きがスムーズになっていきました。

お正月や新学期の始まりは、新しいことに挑戦したり、これまでのことをリセットしたりするのに、とても良いタイミングです。大人も新年の目標を意識したりしますよね。ぜひ、親子の関わり方を見つめなおす機会にいただければと思います。親が思う以上にお子さんは案外成長していて、次のステージに立っているかもしれません。家庭と学校が連携し、思春期に向かっている・思春期真っただ中のお子さん達の育ちを支えていきたいと思っています。

学校では相談窓口を設置しておりますので、心配なことやお困りのことがございましたら、担任又は相談支援係(緒方)までご連絡ください。皆様にはっとできる時間が少しでも増えますように祈っております。 **相談窓口：湘南養護学校 職員室直通 (0463-34-7244)**

